

日高山脈・カムイエクウチカウシ山のテント場トイレ調査

山のトイレを考える会 幸村和実・城石謹爾

1. 目的

日高山脈には登山道の尾根や稜線に小規模なテント場が点在している。国立公園に指定されたことにより登山者の増加が予想され、テント場やカールでの汚物やティッシュの散乱、テント設営や排泄による植物の踏み付け、裸地の拡大が危惧される。その実態を調査、公表することで、国立公園の地域ルール等を検討するための一助となることを目指す。

2. カムイエクウチカウシ山（カムエク）

カムイエクウチカウシ山（1979m）は日高山脈で幌尻岳に次ぐ第二の高峰。日本二百名山でもあり、全国から登山者が登頂を目指す憧れの山である。アクセスも長く、札内川の渡渉から始まり、岩稜帯もあり、山中1～2泊しなければならない。登山ルートには点々と小さなテント場が散在する山である。



「北海道夏山ガイド」のイラストマップをベースにテント場を追加

3. 調査日と調査結果（概要）

2025年7月19日（土）～21日（月）999mの三股に一泊して調査した。計画は2泊だったが、22日は雨の予報であったため1泊となった。

5箇所のテント場を調査。寒く天気もいまいち。ティッシュや汚物の散乱は殆ど無かったが、「999m三股」で使用済携帯トイレ1個とティッシュ1つを回収した。八ノ沢出合いの広いテント場もティッシュも無くきれいだった。



八ノ沢カール下の滝（左：幸村、右：城石）



カムイエクウチカウシ山の山頂

4. 調査結果

■八ノ沢出合い（680m）

沢に近いエリアはソロテント約3張設営可能。トイレ痕は無し。焚き火跡あり。



樹林帯の中はテン場が散在。ソロテント約11張設営可能。トイレ痕は無し。焚き火跡あり。



■999m三股

テント場は2個所でソロテント5張は設置可能。ティッシュ1個と使用済携帯トイレ1個回収。過去に使用したと思われる焚き火跡があった。トイレ道か分からないが踏み跡が散見された。





■八ノ沢カール（1540m）

テント場は4箇所あり。全部でソロテント5張設営可能。トイレ痕無し。

地形は緩やかで水の確保も容易であるが、ヒグマの濃密な生息域であり、糞や食跡（掘り返し）が著しい。ヒグマによる人身事故を回避すべく、テン泊は控えた方が望ましいと思われる。



■山頂直下（1970m）

ソロテント3張設営可能。トイレ痕は無し



■1760m（ピラミッド峰とカムエクの科尔からカムエク側）

無理すればソロテント2張設営可能。トイレ痕無し。



5. 調査を実施して感じたこと

（城石謹爾）

日高山脈のなかでも難易度が高いとされる山に数えられている「カムイエクウチカウシ山」は、かねてから登りたい一座ではあったが、この度「山のトイレを考える会」のテント場とトイレ

レ調査で入山する機会を得た。

私たちが調査に入った日は、生憎日高側からの湿った空気が山脈を越えて十勝側へと流入するフェーン現象という不安定な気候であった。特に八ノ沢カールから上は濃霧となり、主稜線を登降する際には斜め下から吹き上げ叩きつける冷雨に祟られ両手が悴んだ。更に、断続的に降り注ぐ雨に沢の増水を絶えず心配した。沢の遡行を伴う日高登山の厳しさと難しさを痛感。渡渉不可によって生じる停滞を覚悟したが、幸いにも下山時の水量は問題なく、明るいうちに渡渉を終え無事下山できた。

晴れていたら絶景を満喫しながら軽やかな足取りで調査をすすめる事ができたであろう…と天を恨めしく思ったが、調査行としての目的自体は完全に達成する事ができただけでも「御の字」とし、無事の帰還と併せて感謝せねばならぬと感じた。同時に、体力のみならず沢の渡渉や遡行、藪漕ぎに必要なルートファインディングの技量、天候の変化による的確な判断力が求められる事も特筆したい。

原始が色濃く残されている広大な日高山脈では、トイレや携帯トイレブース、山小屋の数が非常に限られている。環境保護の意味からも登山者には携帯トイレの持参・使用をお願いしたいと感じた。また、既存の登山道（夏道）については植生保護や遭難防止から、継続的に整備・維持される事を願いたい。

最後に、「山のトイレを考える会」の一会員として、日高山脈で活動している各山岳団体との連携・協力を図っていきながら、日高山脈の自然を大切にしていきたい。

（幸村和実）

7月中旬、盟友城石氏とともに日高山脈のトイレ調査を行った。計画段階では1839峰と迷ったが、水の確保を考慮しカムエクを選択した。

前泊予定の札内川ヒュッテ到着時には、悪天により撤退してきた登山者の話を聞き、身の引き締まる思いがする。翌朝も雨が続き、若干気の重さもあったが、予報を信じ出発した。長い林道歩きの後、七ノ沢出合の渡渉から八ノ沢へ。ここで1回目のテント場とトイレ状況を実施した。トイレの痕跡は見当たらずまずは安心する。

999 三股のテント場で、使用済みの携帯トイレとティッシュを一つずつ回収する。せっかく携帯トイレを使ってくれた登山者が、持ち帰れなかったことが惜しまれたが、うっかりということもある。悪意ではないと受け止めた。翌日も雨と濃霧の中、999 三股を出発。八の沢カールから稜線へ上がったが、随所に熊の食痕があり、彼らの領域に立ち入っていることを実感する。

無事に山頂に到達し、調査を終えたものの、登山者に携帯トイレ持参の聞き取りを行えばよかったと反省も残った。今回の貴重な機会を与えていただいた「山のトイレを考える会」、そして前泊でおいしい味噌鍋を振舞ってくれ、ルーファイで頼りにした同行者の城石氏にも深く感謝したい。

（以 上）